

第18号(2012年12月号)

2012年12月15日発行

# あらかき通信

(株)アラキ工務店 編集・発行 村上 幸男

〒615-0906 京都市右京区梅津高畝町 52-2

Tel 075-882-8668 Fax 075-872-0223

<http://www.kyoto.zaq.jp/araki/>  
[info@kyoto-kozai.com](mailto:info@kyoto-kozai.com)


**夏の暑さが続いたせいか、秋が案外早く終わるような気がします。**

**紅葉にはまだ早いかなと思っているうちに、風邪を引きそうになりました。**

**皆様にはいかがお過ごしですか。もう12月になります。**

御縁がありまして茅葺民家の改修の御相談にのっています。京都市内、それも結構にぎやかなところにあります。その後、すぐ御近所のこれも茅葺民家の壁の改修のお問い合わせもありました。早速見に行ってきました。先の茅葺の建物は現在お住まいではありませんが、時々帰ってこられて幾日かお泊りになられます。年間を通じて管理されている方も居られ、植木の手入れもされておられます。



敷地も大きく、維持管理も大変なのですが、少なくとも現状維持は何とか確保できているかなと感じます。もう一軒の茅葺民家は現在お住まいとして活用されていて、あちこち大きく修繕改修されておられます。今回はそれ以外のところの修繕です。

茅の屋根は鳥が茅を嘴でくわえて巣に使うのに持つていくため、放っておくとじきにガタガタになるので、見つけては根気よく補修をします。これが大変手間がかかり、一般の人には知られていない苦勞です。

荒木 勇

**荒壁の一部が落下して竹も傷んでいるので補修しています。これに土をつけます。**

この作業をアラキ工務店の職人がしていたら、手伝いに来ている別の職人さんが「上からボードを張るのにそんなことしている会社初めて見たわ」とびっくりされていました。反対に我々は「工、穴が開いているのに埋めないの」とこちらにも驚きました。確かに手間暇掛けてもまったく見えないのですが、けれども、穴が開いたままボード張るのもナンカ気持ち悪いのでねえ。



## 迎賓館の公開に行ってきました。

**友人のお世話で入らせてもらいました。シンプルで豪華、建物そのものと調度品や飾り物はどれをとっても超一級品ばかり。う〜ん、どうなるばかり**

暑い夏の盛りに行きました。入口前で待っているときも暑くて、中に入れば涼しいだろうと思っていましたが、あいにく節電でエアコンの設定がかなり高め。汗が止まらず苦勞しました。ですが、入れば驚くようなものばかり、いやいいものを見ました。



ここは正門ではなく通用門。入り口すぐのところ、高名な華道家の花が迎えます

ここは2番目に広い広間。そこから廊下を挟んで見える池の眺め



ここはメインの大広間、藤の花をモチーフにしています。飾りの物や、デザインその他これを取り入れて製作しています。写真よりはるかに広いです。このカーテンウォールの切金細工は目の前で見ないと良さがわかりません。



ここは和室で、掘りごたつ形式です。座卓は漆塗りの1枚物です。長いですよ。



船もあり、これに乗り池を巡ります。今この木製の和式の船を作る人、日本で何人いるやろか。3年前入札で必要なので調べたときは、四国の四万十川近辺にいる人だけだったかな。

**門、入ってから、飛行場にある金属探知機のゲートをくぐりなかに入る。本当は入れないところの厨房やトイレ、浴室なんかも見なかったな。玄関入口は樺の一枚板で幅90cmほど、今時こんなのあるのかと思いました。**

## 蔵の修繕をやっています。(長岡京市助成工事)

蔵が四棟もある旧家で、今回は二棟のケラバ廻りと、かわらの軒先部分に蔵内部の木部の一部の修繕です。まだいろいろとありますが今期はここまでです。



まずは足場を組みます。といっても屋根の上です。仕事はほとんどなので屋根瓦の上を歩けるようにします



ケラバの古くて浮いている土と漆喰を剥がします。とりすぎてもダメで残してもダメ。簡単そうだがここが肝心。壁も一部あります。

四段ケラバです。手間がかかるな～



荒付けを行います。ケラバの出隅。下の壁からこれだけ出している。

反対側のケラバと下の壁も荒付け塗りです。

下塗りです。いよいよこれから形を整えていきます。



先ほどの出隅部分も形が整ってきました。

塗ってある部分にあるX型のキズは次の中塗りの喰い付をよくするためのキズです。



中塗り開始、定規も取り直して塗っていきます。

マダマダ、これからが力が入るところです。